

【中小】令和3年度1次試験解答講評

1. はじめに

令和3年度中小企業診断士第1次試験が8月21日（土）、22日（日）に実施されました。受験された皆さま、大変お疲れさまでした。

各科目の解答については、一般社団法人中小企業診断協会のホームページ（下記アドレスは予想）に公表されていますのでご確認ください。

令和3年度 中小企業診断士第1次試験の正解と配点（中小企業診断協会）

https://www.j-smeca.jp/contents/010_c_/010_c_r03_shiken/R03_lji_shiken_kaitou.html

2. 科目別分野別難易度

本年度、本試験の科目別・分野別難易度は下表のとおりです。

科目名	科目全体の難易度	分野名	分野ごとの難易度
経済学・経済政策	標準	マクロ経済学（14問）	やや易
		ミクロ経済学（11問）	標準
財務・会計	標準	財務会計（9問）	標準
		管理会計（5問）	易
		ファイナンス（11問）	やや難
企業経営理論	標準	経営戦略論（14問）	やや易
		組織論（14問）	標準
		マーケティング論（13問）	やや難
運営管理	やや易	生産管理（22問）	やや易
		店舗販売管理（22問）	やや易
経営法務	やや難	民法・その他（11問）	やや難
		知的財産権（10問）	易
		会社法（4問）	やや難
経営情報システム	やや難	情報通信技術（13問）	やや難
		経営情報管理（12問）	やや難
中小企業経営・政策	難	中小企業経営（21問）	やや難
		中小企業政策（20問）	難

※テキスト・問題集・過去問3年分を解いていれば標準的に解ける問題の数により判定

3. この問題は必ず得点！

本年度の本試験で、確実に得点していただきたい問題は下表のとおりです。

科目名	分野名	得点したい基本問題
経済学・経済政策	マクロ経済学（6問）	第4問、第5問（設問1） 第6問（設問1・2）、第8問、第10問
	ミクロ経済学（5問）	第14問、第16問、第17問、第18問 第19問
財務・会計	財務会計（3問）	第1問、第9問、第13問
	管理会計（3問）	第7問、第8問、第10問（設問1）
	ファイナンス（4問）	第14問、第15問、第18問 第22問（設問1）
企業経営理論	経営戦略論（8問）	第1問、第2問、第6問、第7問 第9問、第10問、第11問、第28問
	組織論（7問）	第15問、第17問、第18問、第19問 第20問、第21問、第26問
	マーケティング論（3問）	第29問、第31問、第34問
運営管理	生産管理（13問）	第1問、第2問、第3問、第5問、第6問 第7問、第9問、第10問、第16問 第17問、第19問、第20問、第21問
	店舗販売管理（14問）	第24問、第26問、第27問 第30問（設問1）、第31問、第33問 第34問、第35問、第36問、第37問 第38問、第39問、第40問、第41問
経営法務	民法・その他（2問）	第7問（設問1）、第19問
	知的財産権（7問）	第8問、第9問、第11問、第13問 第15問、第16問（設問1・2）
	会社法（1問）	第1問
経営情報システム	情報通信技術（6問）	第2問、第4問、第8問、第9問 第15問、第20問
	経営情報管理（4問）	第13問、第16問、第17問、第21問
中小企業経営・政策	中小企業経営（10問）	第1問、第2問、第3問 第4問（設問1・2）、第6問、第9問 第13問、第16問、第18問
	中小企業政策（7問）	第19問（設問1・2） 第22問（設問1・2） 第26問（設問1・2）、第28問

4. 科目別試験傾向の分析

経済学・経済政策

出題分野は例年どおりで、問題もきわめてオーソドックスな構成からなる出題傾向でした。マクロ経済学ミクロ経済学ともに、特に応用力を必要とする問題はなく、基礎理論をしっかりと理解し、グラフ・表を読む力を養っていた受験生は高得点を獲得できたのではないのでしょうか。経済事情についての問いも日頃から報道等に接していれば解けるものであり、難易度は、やや易に近い「標準」としました。

財務・会計

例年よりファイナンスが難しかった印象です。特に、第21問は学習範囲を超えており、ここで時間を費やすのは得策ではありません。いつものように、平易な問題にこそ時間をかけて確実に得点を積み上げましょう。財務会計は上にあげた3問以上（特にキャッシュ・フローは頻出論点）、管理会計は5問中4問以上取りたいところです。

企業経営理論

全体の難易度は標準レベルで合格を狙えました。戦略論は出題される論点が一番安定しているので、過去の出題傾向を押さえておけば高得点が狙えました。組織論も問題文を正しく読むことで知識が不足していても正解を選べる問題も見られました。マーケティング論は例年と比べ実践的な知識を問うものが多く、単語を覚えるだけでは正答を選びにくい問題が多く、難易度は高くなりました。

運営管理

全体的に易しめです。生産管理、販売管理ともに基本問題が半数以上を占めており、販売管理は常識的判断で正解可能な問題も数問ありました。中難度の問題もテキストの学習で正解できる問題が少なく、テキストをしっかりと学習し、直近3年の過去問に取り組んでいれば6割を確保するのは比較的容易なレベルであったといえます。

経営法務

分野によって難易度に大きな違いがありました。得点源となるのは、第8問から第16問まで続く、知的財産権分野の全10問です。このセクションの問題は基本的な内容が多く、しかも約半数は、3年以内の過去問からの再出題やリメイク作でした。過去問学習に力を入れた受験者は報われたことでしょう。ほかの分野は、商法等の特別法に関する問題や法改正に関する問題が目立ち、全体的に難関でした。

経営情報システム

平成29年度から4年間続いた易化傾向は終わり、本年度は「やや難」となった印象です。「情報通信技術」では新規IT技術、「経営情報管理」ではSociety5.0、DXなど流行りの用語が多数出題され、過去問での対策だけでは合格点は難しかったと考えられます。ただ消去法等で選択枝の絞り込みが容易な問題も多くあり、あきらめずに取り組めたかどうか合否を分けたと思われます。

中小企業経営・中小企業政策

中小企業経営は『中小企業白書』を中心とした内容からの出題でしたが、白書を隅々まで読んでいなければ対応できないピクスのような内容の問題が多く、受験者の方は戸惑ったかもしれません。一方、中小企業政策は出題傾向がガラッと変わり、新しい論点に加え、少し前の法改正に関する内容などをも問われ、これまでの頻出問題中心に解く学習法で得点するには難しい試験となりました。